

陳情	受理番号	55	受理年月日	令和4年4月26日	付託委員会	厚生経済
件名	NAHA マラソンを市民マラソンに回帰させることについて					

件名 NAHAマラソンを市民マラソン について (陳情)
に回帰させることを目的とします。

陳情の趣旨

別紙の通り、

陳情の理由

NAHA マラソンは気候条件およびコースなどを
考慮するとオリンピックや国際大会などに出場できる
記録の更新につなげる大会とは望めないものです。
沖縄陸協が公認大会に(た背景にはまだまだ
経費を計上すること、私腹を肥やす結果につなげ
ている現実を糾弾する為の陳状と致します。

陳情の事由について

私たちは那覇マラソンが開催された草創期より運営に関わって参りましたが、コロナ禍の影響から第 35 回大会以降は2年間の中止を余儀なくされ、今日現在に至っていますが、この度は那覇マラソンの実情を那覇市議会議員各位にご理解願うために陳情させて頂いた次第です。

さて、那覇マラソンは 1985(昭和 60)年にハワイ州ホノルル市と姉妹都市 25 周年を記念して開催されたのが起源となりました。特に 2009(平成 21)年の 25 回大会では大会申込者数がおおよそ 34,000 人と増加し、県外や海外からの参加者も 13,000 人以上に達したことで国内最大規模の市民マラソンとして発展しましたが、今では開催当初からの理念であった沖縄屈指の祭(フェスティバル)にそぐわない大会になっています。それは長年、那覇マラソン開催に伴い、心血を注いだ意見や賛同などを得ることもなく、当時の某議員と沖縄陸協の会長との密談で第 28 回大会から日本陸上競技連盟公認大会に位置づけられた経緯があります。それらは、関係者の誰もが納得しがたい内容でありましたが、2012 年6月 18 日(月)には那覇市教育委員会から連絡があり、6月 22 日(金)には競技部会が開催され、日本陸連公認大会とすることが決定したと発表されましたが、一方、大会運営の屋台骨を支えて来た競技部に対して事前の説明などは皆無でした。なお、沖縄陸協の報告を受け観光課がまとめたのが以下の通りです。「公認大会にすることで、記録が公式記録として陸連に公認されるため、競技者ランナーには国際大会等へ参加するための参考基準になる。」、「競技力向上につながる。」「有力ランナーの参加が見込まれる。」と謳われましたが、那覇マラソンはホノルルマラソンなどと気候条件やコースなどが類似し、高温多湿な中で記録を目指す大会ではないことが明白で、ホノルルマラソンは最も世界記録を更新できない大会と認知されていますので、記録更新をはじめ、オリンピックや世界陸上などに出場を目指すトップランナーは、気候条件とコースに恵まれた那覇マラソンの同日日に開催される「福岡国際マラソン」に出場することが不文律になっています。

この度の陳情は那覇マラソンが公認大会になったさまざまな弊害と沖縄陸協に対して収入源に無駄な経費になっていることを糾弾し、本来の市民マラソンに回帰させて沖縄の貴重な観光資源を、明朗で健全なイベントとして未来に向けて育んで行かねばならないと考えます。

- ①那覇マラソン開催当初の主旨に則った大会として、運営すべき案件だと考えます。
- ②沖縄県民をはじめ、県外から参加者を増やす為のイベントありたいと願っています。
- ③那覇マラソン参加者は、記録更新より互いにお祭のような雰囲気を楽しんでいます。
- ④健全なスポーツイベントに政治と団体などの癒着は祭の主旨を喪失するものです。
- ⑤コロナ禍がやがて沈静化し、医療体制に支障が生じない日を心待ちにして以前の那覇マラソンの体制を無事に迎えられることを陳情者一同、切に願って止みません。

以上